

兵庫県立工業技術センターにおける デザイン振興活動

兵庫県立工業技術センター 生産技術部 機械システムグループ 平田一郎

◇ はじめに

兵庫県立工業技術センターは、兵庫県工業試験場として大正6年（1917年）に創設され、平成29年（2017年）に創立100周年を迎えた製造業の技術支援機関です。県内企業のモノづくり力強化を図るため、3つの重点戦略「中小企業の“技術の駆け込み寺”としての機能強化」「イノベーション創出に向けた成果指向型研究開発の推進」「産学官連携ネットワークによる工業技術センター機能の拡充」を掲げています。製造業が抱えている技術的な課題について、短期的な視点での支援策として「技術の駆け込み寺」、長期的な視点での支援策として「成果指向型研究開発」の両方の役割を担っています。その中で、デザイン担当者の役割は時代と共に変化してきています。

以前は、地場産業や地元企業が抱えている「課題や問題を解決」するためのデザイン的な支援を行うことが主な業務だったのですが、現在は「未来のあ

りかたを提案」するための研究開発的な用務も増えてきています。重点戦略の中の「イノベーション創出に向けた成果指向型研究開発」を推進する上で、デザイン担当者が関与することにより「研究のコンセプトの明確化」や「研究成果の可視化・具体化」しやすくなります。また、研究内容や研究成果をわかりやすく伝えることで、研究成果の活用方法に興味を持たれる企業が増え、新たな研究開発や企業連携に発展しています。

本稿では、当センターのデザイン担当の役割が大きく変わるきっかけとなった内閣府の研究プロジェクトである「SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）革新的設計生産技術（以降、SIP研究）」の事例を中心に紹介します。

◇ SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）革新的設計生産技術

SIP研究のテーマは「リアクティブ3Dプリンタ

●図1 価値共創の3者関係図

